

第2回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成23年3月7日（月）10：00～12：00に、栃木県栃木市の藤岡遊水池会館において「第2回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」を開催し、委員会開催後に現地視察を行いました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は委員7人全員のご出席をいただきました。

【委員名簿】（五十音順、敬称略）

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授
一色 安義	渡良瀬遊水池野鳥観察会 会長
大川 秀雄	とちぎ昆虫愛好会 会員
大和田 真澄	栃木県植物研究会 会員
清水 義彦	群馬大学大学院 教授
高松 健比古	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人
守田 優	芝浦工業大学 教授

最初に事務局より、前回第1回委員会での指摘事項と対応を報告し委員の確認をいただきました。次いで、全体施工計画と現在の進捗状況についての報告があり、現在の掘削状況についての質問や助言をいただきました。また、モニタリング計画（案）の説明に対して、モニタリングの具体的な内容等についてさまざまな角度から活発な議論がなされました。また、現在行われている環境調査についての現状報告について、助言・指導をいただきました。今回の助言等を具体的にモニタリング計画に反映させて、モニタリングを実施します。

委員会後には、試験施工地で施工の完了した環境学習フィールドおよび現在施工中の水位変動型実験地の現地視察を行いました。

【委員会の様子】



○委員会での意見等（抜粋）

【現在までの調査結果について】

意見：湿生草地再生実験地の結果から、外来種対策が重要であることが分かった。望ましくない方向に進んだ場合、どうするかを検討しておく必要がある。

対応：湿生草地再生実験地で、セイタカアワダチソウの除草と冠水による抑制の実験を行っているが始めたばかりで効果がまだはっきりとは見えていない。今後も継続していく予定である。

意見：セイタカアワダチソウの除草は何年か継続することによって効果が出るということが分かっている。また、現地で観察すると冠水によってセイタカアワダチソウの成長が抑制されている傾向も見えるので今後も注目していきたい。

【モニタリング計画について】

意見：動物調査について、NPO 等と調整の上実施とあるが、具体的に決まっているのか。

対応：具体的にはまだ決まっていないが、今後 NPO 等と調整を行い、事務所で対応が難しい調査項目について協力をお願いしたい。

◆現地視察

委員会後には、試験掘削の完了した環境学習フィールドと施工中の水位変動型実験地の現地視察を行いました。

【現地視察の様子】

◆試験施工地（環境学習フィールド）



◆水位変動型実験地



朝からの雨が委員会中に雪となり、現地視察に出かたけた時は遊水地もうっすらと雪化粧をしていました。現地視察では、事務局から実験地の目的や構造の概要説明があり、地下水や土壌構造、冠水の状況等についての質疑応答がありました。環境学習フィールド、水位変動型実験地ともに植物等は見られませんでした。掘削直後の実験地の初期状態について詳しく観察することができました。

◆渡良瀬遊水地トピックス

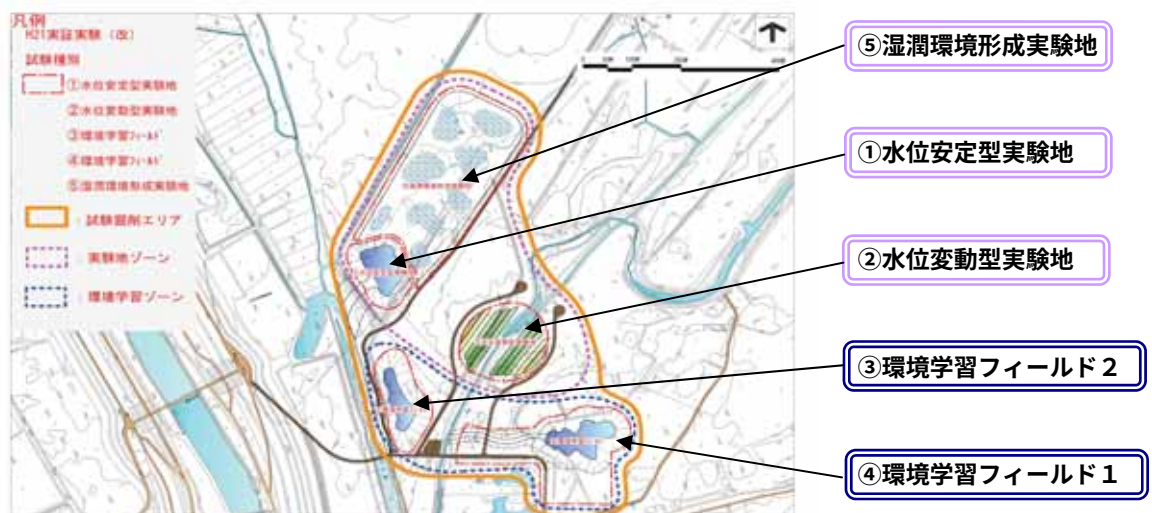
○試験掘削エリアの掘削進捗状況（H21・22年度）

現在第2調節池にて掘削を進めている試験掘削エリアの掘削進捗状況をお知らせします。

5つの掘削地のうち、現在、④環境学習フィールドと②水位変動型実験地の一部の掘削が完了しています。

◆試験掘削エリア全体図

（形状、配置は計画段階であり、今後変更となる可能性があります。）



◆③環境学習フィールド1と②水位変動型実験地の掘削状況

